

2025年度 すくわくプログラム ポピンズナーサリースクール馬込 【12月】活動報告書

【活動テーマ/テーマ設定背景】

- テーマ：他国のクリスマスについて知る
- 設定背景：クリスマスが近づく中で、絵本や日常の会話を通してクリスマスへの期待を高めていた。その中で「ほかのくにもサンタさんはくるのかな」といった疑問の声が聞かれ、他国のクリスマス文化に自然と関心を寄せている様子が見られた。身近な行事であるクリスマスから、多文化への興味や理解を深めていけると考え、テーマを設定した。

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

- ・英語講師に来てもらう。
- ・プロジェクター、サンタクロースの帽子を用意する。
- ・事前にクリスマスを題材にした絵本の読み聞かせをする。

【活動内容/お子さまの声や姿や保育者との関わり】

- ・英語講師と挨拶を交わし、多分化に親しむ。
- ・他国でクリスマスに食べられている食べ物を知り、日本と同じ点や異なる点に気付く。
- ・国ごとに特徴のあるイルミネーションやクリスマスマーケットなど、クリスマス文化の違いについて知る。

英語講師がサンタの帽子を被って登場すると「サンタだ」「ハロー」と笑顔で挨拶し、期待に満ちた様子であった。プロジェクターを使って世界のクリスマス文化を知る中で、日本と同じようにチキンを食べる国があることや、ブラジルでは暑い季節にクリスマスを迎えることを知り、驚きの声をあげていた。クリスマスマーケットという言葉は聞いたことがあるものの意味は曖昧だったようだが、今回の活動を通して内容を理解し、納得した表情を浮かべていた。

また、国は違ってもクリスマスはサンタクロースが来る特別な日であり、子どもたちがワクワクする行事であることは共通していると気付き、他国の文化に親しみを持つ姿が見られた。



【振り返りをふまえた気づき】

これまでクリスマスは日本の身近な行事として捉えていたお子様たちであったが、他国にもサンタクロースがくるのかという疑問を自ら抱いていたことから、行事をきっかけに世界へと想像を広げる力が育っていることを感じた。また、国によって季節や過ごし方は違っても、クリスマスが人々にとって特別で楽しみな日であることは共通していると知り、他国の文化を自分たちの生活と重ねながら理解しようとする姿が見られた。講師との関わりを通して、違いとしてだけでなく、面白さとして受け止める姿勢が育ってきていると感じた。